

2016 年度第 7 回 Faculty Café 実施報告

2016/11 報告者 大学総合研究センター職員（川合・松本）

<Faculty Café>

日時：2016 年 11 月 9 日（水）16 時～16 時 30 分

場所：19 号館 共創館

講師：堀井 俊佑 准教授（グローバルエデュケーションセンター）

テーマ：グローバルエデュケーションセンターにおけるフルオンデマンド授業の事例紹介

実施概要

今回の Faculty Café では「グローバルエデュケーションセンターにおけるフルオンデマンド授業の事例紹介」をテーマとし、グローバルエデュケーションセンター 堀井俊佑 准教授より報告頂き、コンテンツ作成に関する工夫、フルオンデマンド授業のメリット・デメリットについてお話し頂きました。本科目は、商学部で必修化されており、クラスによっては受講者が 1,000 名程度在籍するという状態も発生し、問い合わせ対応として、Course N@vi 上で質問箱を設定したり、TA20 名程度を雇用して、直接質問できる仕組みを構築したとのことでした。フルオンデマンドコンテンツのメリットとしては、授業期間中の出張が発生しても休講にする必要がなくなり、学生も繰り返しコンテンツを視聴して教育効果を高めることが挙げられるというお話を頂きました。一方で、コンテンツ作成の負担が大きく、学生のリアルタイムでの反応が分からない事を挙げられ、利用教員の工夫が必要であることを指摘されました。報告後、森田大学総合研究センター副所長をファシリテーターとして、参加者が 2 グループに分かれて、オンデマンドコンテンツに適したコンテンツの作り方、オンデマンド活用を対面授業で活用することを想定した場合の、効果的な授業デザインについて議論し、それぞれ提案しました。前者の議論の中では、受講生に飽きさせないために、単に使い回しのコンテンツとするのではなく、授業に関連した時事ネタを数分程度の映像として再収録したり、大学外の場所でロケ収録することで、学生にフレッシュな気持ちで受講させることが可能だという話が挙がりました。また、後者の議論としては、学生のドロップアウト率を低くするために、MOOCS を利用するなど、より魅力的なコンテンツの開発が大事であること、教員ごとに独創性のあるオリジナルコンテンツを蓄積する事の重要性が挙がりました。

